大物塗装受注で競争力

車関連増、ワーク自動搬送

安田塗装工業

次代を担う中部企業 56

安田塗装工業は創業者でもある先代が、愛知県三河地方の工作機械メーカーの工場で塗装の腕を磨いた。以来、機械メーカーとの取引が主力。実装機や工作機械などの架台のほか、工場内の設備を中心に塗装を請け負う。風向きが変わったのは5年前。同安城市内に高棚工場を稼働し、大物製品の仮置き場を確保した。大物塗装が可能ということが機械メーカーから広まり、自動車関連部品からも受注が入りだした。

「長さ7、8㍍の構造物や大型工作機械の塗装ができるということが口コミで広がったようだ」と安田守克社長は手応えを感じている様子。小物を塗装できる業者は多いが、大物となると工場の塗装ブースだけでなく仕掛品の設置スペースも必要。中小がひしめく業界にあって大物を扱うことが競争力になる。

高棚工場は床面積が約8260平方㍍。塗装ブース、乾燥炉を備えている。主力は機械の架台だが、近年急増しているのが自動車関連。大型車のシャシーやボディー部品、排気系部品も手がけるようになった。いずれも取引先からの紹介で声がかかった。

製品には手作業でマスキングテープを貼り付け、塗装もほぼ手作業。そのためほとんどの社員が塗装技能士の資格を持つ。「高い塗装品質を持つことが品質につながり、原材料のムダを省くことになる」（安田社長）。

高棚工場には5月に塗装ブースから乾燥機に加工対象物（ワーク）を投入する自動搬送機を設置した。今後の大型ワークの受注増を見据え、最大可搬重量1㌧のハンガーを10台以上備えた。

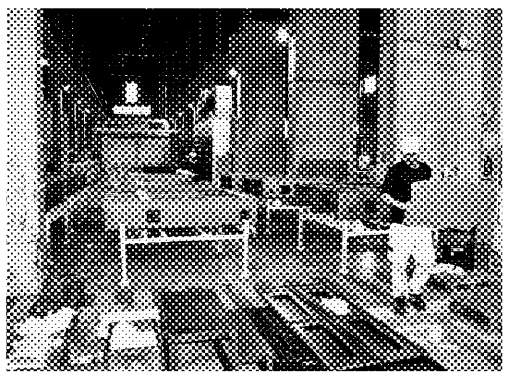
大型ワークの難しさは工場内の移動。パレットに載せてフォークリフトを使う従来の移動から、レールを設置して移動をスムーズにした。

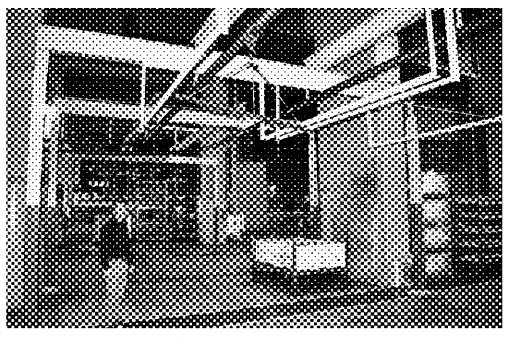
2024年12月、環境管理の国際規格「ISO14001」を返上した。環境規制が厳しい塗装業にあっては異例のことだが、安田社長は「ノウハウは取得したから」と意に介さない。同規格を取得したのは02年と専業メーカーとしては先行していた。「20年以上継続して、できることはやり尽くした」（同）。

一方で24年10月にサイエンス・ベースド・ターゲッツ（SBT）イニシアティブの認定を取得した。温室効果ガス（GHG）排出量はすでに18年度で60%以上削減した。GHG削減を目指す大手にとってサプライチェーン（供給網）に組み入れたい塗装業者だ。

（名古屋）

（随時掲載）





㊤大物製品が並ぶ高棚工場㊦1㌧の製品を吊す搬送機（同工場）

【企業概要】
▷所在地＝愛知県安城市根崎町西新切83の1▷代表者＝安田守克氏▷設立＝80年（昭55）12月▷資本金＝1000万円▷従業員＝65人▷売上高＝約14億6000万円（25年3月期）

日刊工業新聞 ― 安田塗装工業株式会社
無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社